



研究テーマ

地域の国際化～地域に適したインバウンド旅行者受入体制の分析～

本学留学生の地域連携の促進

大学生の自主活動の活性化



金岡保之

かなおか やすゆき
地域資源創成学部

准教授

キーワード

地域の国際化、地域の活性化、ICT、経営戦略、インバウンド、地域学部、多言語表示、食レポ、ソーシャルメディア、グローバル化、留学生、宮大チャレンジ・プログラム

特許情報・
共同研究・
応用分野など

日南市総合戦略課、油津商店街、飢肥地区、戸村グループ、日本青年会議所などと協働して研究している。

研究概要

「地域の国際化」をメインテーマとして、魅力的な地域資源を ICT を活用して国内はもとより全世界に情報発信する有効的な手法を構築し、さらにモデル化することを目標に研究しています。県内外や国内外の様々な組織と連携してプロジェクト型の研究することで、学生の国際教育にも寄与することができると考えています(PBL 教育・実践的教育)。

また、大手通信会社と商工会議所との共同研究では、企業のホームページによる情報発信が経営に与えるインパクトを研究しています。具体的には、ホームページや SNS を活用することで来店客数や売り上げなどの経営指標がどのように変化するかをヒアリング調査やアクセス分析で検証し企業にフィードバックします。

1 「地域の国際化～地域に適したインバウンド旅行者受入体制の分析～」

日南市油津港には、中国、台湾からの大型クルーズ船の来航が急激に増加する(2016年3月から6月だけで10隻予定)など、数千人規模のインバウンド旅行者の対応が迫られる中、当地域では早急なインバウンド旅行者受入体制の構築が求められています。

具体的には、宮崎大学留学生や日本人学生と現地入りし、市の担当者と打ち合わせをした後、「多言語マップ」数種類を作成し現地で活用されています。また、地域の魅力を発信する為の「多言語、食のレポート動画」を作成し、インターネットでグローバルに情報発信するなど外国人旅行者の受け入れサービスを開発し、効果を分析しています。

2 「本学留学生の地域連携の促進」

留学生の教育・研究・日本文化体験などをサポートするメソッドについて研究しています。また、宮崎大学国際連携センターや産学・地域連携センターなどの学内組織の他、県内の企業、地方自治体、日本青年会議所の非営利法人組織などと幅広く連携してプログラムを開発しています。

(活動例)

- ・2015年秋 坂元棚田収穫祭(於、日南市酒谷地区) 留学生13カ国55名を動員し、そば打ち体験、餅つき体験、地域住民との連携プログラムを実施。
- ・2016年5月22日 第6回宮崎国際フェスティバル(日本青年会議所主催)世界のファッションショーを企画・運営を実施。10カ国40人の留学生と地域学部生など約30人の宮大生が参加。



3 「大学生の自主活動の活性化」

本学学生団体の活動、組織、運営、コラボレーション等のアドバイスを行うと共に、学生が自ら組織を運営して学ぶことの大学教員としてのサポートとは何かを研究しています。

(対象団体)

- 1)「宮崎カンキツ広め隊」 ICTを活用し、宮崎の柑橘の魅力を国内外に情報発信。平成28年度「宮大チャレンジ・プログラム」採択決定。
- 2)「雑誌 mU-Um(ムーム)プロジェクト」 定期発行の雑誌で、地域学部の活動や地域の魅力を情報発信。平成28年度「宮大チャレンジ・プログラム」採択決定。
- 3)「ベーコンズ」 豚の飼育→屠殺→加工商品開発→試食(販売)の六次産業の仕組みを実践。
- 4)「つながり大作戦」 東北大地震の経験を宮崎の防災に生かす活動を県内他大学と連携。

ホームページ

金岡研究室 <http://kanaoka-lab.com>

技術相談に応じられる関連分野

- ・インバウンド旅行者の受入れ体制の構築のサポート
- ・地域活性化のためのソーシャルメディアや ICT の活用提言
- ・国内外のビジネスで必要となるビジネス英語を指導

メッセージ

地域学部の学生は、経営学を中心に地域のリーダーとなる教育を受けています。また、本学留学生は26の様々な国や地域から178人が学んでいます。地域学部の学生と地域で活動したい留学生を結びつけ地域の国際化に寄与したいと考えています。